



未来の子どもたちから「借りている地球や地域」を、良いかたちで返すため、自然豊かなこの地らしいエネルギーの地産地消をめざしてー。

地域にあるものを活かすくらし

行政とのミーティングスタート！



※松本地域ビジョンとは

長野県の総合 5 か年計画「しあわせ信州創造プラン」を推進するため 2013 年に策定された松本地域独自の取組の方向性が「松本地域ビジョン」です。ビジョンは大きく 5 つに分かれます。

1. 人が集い、活気と賑わいに満ちた地域をめざして
2. 恵まれた環境を守り、人と自然が共生する地域をめざして
3. 地域を支える活力ある産業が広がる地域をめざして
4. 誰もが安全・安心に暮らせる地域をめざして
5. 地域を支える人づくり

※松本市長、塩尻市長、安曇野市長、麻績村長、生坂村長、山形村長、朝日村長、筑北村長、松本保健福祉事務所長、松本建設事務所長、安曇野建設事務所長を委員に、座長は松本地方事務所長による「松本地域戦略会議」によって策定。

自然エネルギーネットまつもと & 長野県松本地方事務所環境課の定例ミーティングが 6 月に始まりました。

6月27日、松本市民活動サポートセンターで松本地方事務所との初めてのミーティングが実現しました。松本地区で 2012 年度につくられた「※松本地域ビジョン」の自然エネルギーの普及拡大への課題に対する相互協力のための初会合です。

このミーティングは月に 1 回程度、長野県松本地方事務所の環境課から毎回数名の方に出席いただき、自然エネルギーネットまつもと（以降エネットまつもと）の会員有志と討論形式でテーマ議題をみんなで検討していくもの。

第1回は「松本地域ビジョン」の概要、具体的施策の1つ「自然エネルギーの普及拡大」の活動状況を環境課の方から説明いただき、主に松本地域ビジョンについて自由な意見を交わしました。第2回は、松本地域ビジョン実現についてのより具体的な課題や方策について意見交換を実施。エネットまつもとが実際どのように関わって協力できるのかについては、第3回以降に討議していく予定です。

毎回、熱の入った意見が多数交わされています。今後、地方事務所と同じ方向を見つめた前向きで活気あるミーティングに育っていくことができがすばらしいと思います。

また、このミーティングを継続することで、自然エネルギーの普及や少ない自給エネルギーでもしあわせに暮らせる地域プランを松本地方事務所といっしょに模索し、小さくても具体的な成果に結びつけていきたいと考えています。

詳しくは、ホームページをご覧ください。

スマホでアクセス！

●イベントの情報はホームページの最新情報でご確認ください。

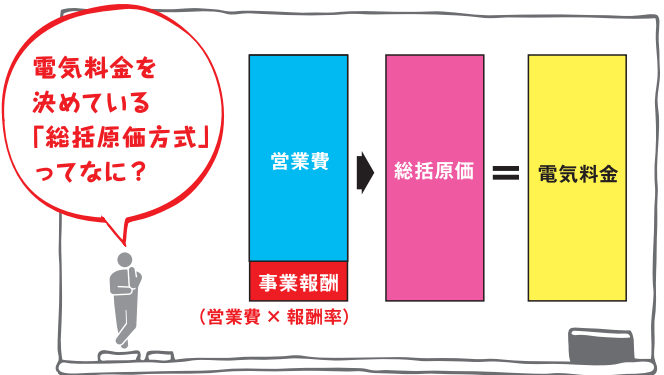
●過去のイベントの様子はホームページのレポートをご覧ください。

<http://www.enet-matsumoto.net>

自然エネルギーネットまつもと

検索

目からウロコ！知ってますか。vol.3 原発のなぜ？なに？



原発の問題点を考えるなかでよく登場する「総括原価方式」。3.11 前、この言葉を知っている人は珍しかったでしょう。

総括原価方式とは、原発に限らず、電気やガス、水道といったインフラサービスの料金を決める方式のひとつで、公共性が高い産業に対して、安定した経営を確保するために考えられたものです。電気料金には戦前から導入されました。

総括原価は【営業費】と【事業報酬】の合計です。営業費とは発電と送配電、電力販売などにかかる費用の総額。営業費に 3%前後の報酬比率をかけたものが事業報酬。電力事業に必要なコストである営業費と事業への報酬が電気料金として保証されるのが総括原価方式です。

営業費は事業計画をもとに申請するので、実際にかかった費用との差が生まれます。例えば東京電力では 11 年間で実際の営業費と 6,000 億円ものずれがあったそうです。原発が止まり発電していない日本原発にも、各電力会社は基本料金を支払っています。この費用も営業費として扱います。ルール上は正しくても健全な姿とは言えないでしょう。総括原価方式には適正な申請と厳正な審査が欠かせません。それなくしては費用は膨らむ一方です。稼動しなくても膨大な費用がかかるのが原発ですから。

経産省は 2018 年以降に総括原価方式撤廃方針を出していますが、新たな制度がどんなものになるのか注視が必要ですね。（文：平島安人）

Voice 会員さんからちょっと一言！ #3 田口康夫さん（運営委員）（溪流保護ネットワーク・砂防ダムを考える会代表）

再生型自然エネルギーと砂防ダム利用の小水力発電について

私は 30 年ほど前から化石燃料に頼るエネルギーのあり方に疑問を感じ、太陽エネルギー利用の温水器や温風機を自作。日曜大工レベルですが十分効果をえています。

2011 年 3 月の東日本大震災によって起こった福島第2原発の事故。脱原発そして再生可能な自然エネルギー利用の発電には賛同しますが、私たちが長年取り組んできた砂防ダム問題を考えるとき、砂防ダム利用の小水力発電で起こる問題点には危惧しています。

川をせき止めている砂防ダムは全国におよそ 9 万基。ところが、これらの建設が土砂の供給不足を加速させ河床低下や海岸浸食などの原因になっています。例えば護岸の基礎がえぐられるなど、海岸では防災上工事の現場を増やし膨大なお金が浪費されています。今、積極的に川の土砂を流さなければならぬ時期に来ているのです。

私たちは既に造られてしまった膨

大数の砂防・治山ダムにスリット（開口部）を入れることを提案しています。このメリットは大きく、ダム新設に比べお金がかからない（10 分 1 以下）、今後起こり得るダム寿命による決壊リスクの低減（開口部から土砂が抜ける）、川環境や景観の復活など一石何鳥にもなります。もちろんスリット化が進めば砂防ダム利用の発電はできません。しかし、砂防ダム利用の発電が進めば、既設砂防ダムのスリット化の流れは進まなくなることは予想できます。既設砂防ダムのスリット化で、浮いたお金を本当に必要どころに使えるような政策が必要と考えたいものです。



写真：乳川白沢砂防ダムスリット化改修

Study 会員以外の方も自由参加型の学習会を月 1 回開催しています。お気軽にご参加ください。

2012 年 8 月のスタートから丸2年が経過した「学習会」は、エネットまつもとの月 1 回の定例イベントとして定着しています。どなたでも無料で自由に参加できるアットホームな学習会です。ぜひ一度、見に来てみませんか。会場は「松本市民活動サポートセンターの会議室」です。（開催時間は通常 19：00～20：30）

2014 年度も「持続可能な社会を考える」が基本テーマですが、会員が発表したい、聞きたいを重視したバラエティに富んだ内容で実施しています。下記は4月から8月までの学習内容です。※詳しくはホームページをご覧ください。

4 月「地球温暖化問題の最新情報（IPCC 第 5 次報告より）」

気象と地球温暖化、温暖化の原因についての基礎知識、各国の推薦科学者によって構成される IPCC が発表した様々な最新の考察について学びました。

5 月「自然エネルギー総論」

初心に戻って「なぜ、自然エネルギーなのか」をはじめ、太陽光発電、太陽熱、海の自然エネルギー、地熱発電、バイオマス、小水力などそれぞれの自然エネルギーの基礎知識と利点・問題点などについておさらい学習をしました。

6 月「松本地域の自然エネルギー賦存量・推定利用可能量について」

自然エネルギーネットまつもと「賦存量ワーキンググループ」の成果を紹介しました。

7 月「小水力発電事業の共同事業化」

エネットまつもとの会員が推進する事業の環境省里地山委託事業への応募に関する、説明・報告会。

8 月「KP 法コミュニケーションおよび環境教育の勘所について」

環境問題そのものではなく、多く

Person 信州大学インターンシップ制度により経済学部学生「前田 悠」さんをインターンとして受け入れました。

環境保全に関心を持っていた前田さんは、市民の作る関連の団体がどのような運営・活動をしていて、社会や地域にどれほどの影響力があるのかといったことに興味をいだいていました。今回、そのような視点から自然エネルギーネットまつもとを題材として、実際の活動事例を学びたいということで、当会へのインターンを希望してくれました。



前田 悠（まえだ はるか）さん 信州大学経済学部 4 年

エネットまつもと通信

action

Think together and action

005

2014年9月30日発行
※エネットまつもと＝
自然エネルギーネットまつもとの通称



01 WG ワーキンググループ情報

●各ワーキンググループの活動状況&予定
(WG=ワーキンググループ)

●MOKUBA の会 (木質バイオマス WG)
「この地域の恵まれた森林資源を有効に活用して、循環型の社会を築いていきたい」という思いから集まったメンバーが月 1 回の定例会を開催しています。参加者は常時募集中です。

5 月には、会員である(株)丸山鉄鋼所の丸山さんが開発中の「発電薪ストーブ アイアンシェフ」の見学会を行いました。(最高出力は 50W、ピザも同時に焼けます)



また、松本市四賀地区の会田中学校で「木質バイオマスの身近なエネルギー利用」に関する公開授業を開催予定です[10月27日(月)13:30～15:30]。開催内容はホームページで報告予定です。

●学習会 WG
月 1 回のペースで開催している「学習会」は、地球環境問題から各種自然エネルギーまで、テーマを幅

広く取り上げています。会員以外にもオープンですので、どなたでも自由に参加できます。みなさんにお知らせしたいことや知識をお持ちの方、ぜひ勉強会で発表してください。講師募集中です。※内面トピックスもご覧ください。

●ネットワークづくり WG
毎回好評のロケットストーブづくりワークショップの第 3 回を年度内に開催予定です。エネットまつもと以外のイベントでも、ワークショップ・講演活動などを通じてネットワークの拡大に励んでいます。11 月よりエネットまつもとが担当する信州大学での講座の計画づくりも進行中です。



★新しい情報はホームページやフェイスブック、WG のブログをご覧ください。ブログバナーはホームページトップに。



スマホでアクセス!

私たちといっしょに「考え」「学び」そして「行動」しませんか。 会員募集中です

現在、会員数は 60 人。個人登録制です。自然エネルギー関連の事業をされている方もいらっしゃいますが、多くの方は一般の市民の方々です。松本地域をはじめ、伊那、長野、諏訪からも参加されています。

入会の方法 ●年会費 2,000 円 (入会金はありません)

ホームページの入会申込書 (Word) を入手ください。

必要事項を入力 (記入) 後①電子メールで送付、または②プリントアウトして FAX にて送付、あわせて指定口座に会費を入金してください。

入会後は、メールで情報をお届けします。各種会議・イベント・学習会へ自由に参加いただけます。



自然エネルギーネットまつもと

詳しくはホームページをご覧ください。
<http://www.enet-matsumoto.net>

※本リーフレットの制作には、信州のグリーン電力 50kWh が使われています。

02 Event

2014 年度前半 イベントダイジェスト

●2014 年度、自然エネルギーネットまつもとと通常総会

2014 年 4 月 20 日 (日)、塩尻市総合文化センターで 2014 年度、自然エネルギーネットまつもとと通常総会を開催。

本年度の計画・予算等の議事の他に、「エネットまつもとのこれからを語り合う」をテーマにワークショップ形式で出席者同士の意見交換会

を実施。会のこれからのビジョンを見つめ直しました。
(詳しくはホームページのレポートをご覧ください)



●自然エネルギーネットまつもとと NECO 公開講座

7 月 6 日、松本市市民活動サポートセンターフリースペースにて、自然エネルギーネットまつもとと NECO の「浅輪剛博」さんによる 3 講座。参加者は 40 名を超え、会場はほぼ満席。速くは福島県や千葉県など県外からの参加もありました。(詳しくはホームページのレポートをご覧ください)

農地の上に太陽光パネルを設置する『ソーラーシェアリング』発案者「長島彬」さん、太陽光パネル “相

乗りくん” 事業を進める「藤川まゆみ」さん、そして、NECO の「浅輪剛博」さんによる 3 講座。参加者は 40 名を超え、会場はほぼ満席。速くは福島県や千葉県など県外からの参加もありました。(詳しくはホームページのレポートをご覧ください)

※NECO=(一社) 自然エネルギー共同設置推進機構



●自然エネルギーネットまつもとと松本地方事務所環境課ミーティング

2012 年度につくられた「松本地域ビジョン」。ビジョンの 5 つの方向性のなかの 1 つに「恵まれた環境を守り、人と自然が共生する地域をめざして」があります。そしてその具体施策の 1 つ『自然エネルギーの

普及拡大』を推進するための相互協力を模索するため、地方事務所環境課とのミーティング (定例) がスタートしました。



◎第 1 回: 6 月 27 日 (金)

◎第 2 回: 8 月 8 日 (金) ◎第 3 回: 9 月 26 日 (金)

※開催場所は各回とも松本市市民活動サポートセンター

※ミーティングの概要は本通信の内面の記事またはホームページのレポートをご覧ください。

●第 2 回ロケットストーブづくりワークショップ

9 月 13 日 (土)、原村のたてしな自由農園駐車場を会場に、信州ネット SUWA が主催した自然エネルギーイベントで、2 回目となるロケットストーブづくりワークショップを開催。12 名の参加者に加え、通りがかりの方たちからも「これは何か?」

「どのように使うの?」と、関心の高さを実感しました。



自然エネルギーネットまつもと通信

action

Think together and action 005

2014 年 9 月 30 日発行 第 5 号

循環でなりたつ
自然な暮らし方に出会って
とても、自分らしく
行動できるような
になりました。

朝日村のキャンプ場で行われた自然体験イベント「あさひでい!」で草木染めのワークショップを開催中の「中野あや」さんを訪ねた。草木染めの染料加熱コンロとして、あやさん自作のロケットストーブ 2 機が大活躍。燃料は木工場で出た木くずや木の枝だ。

「以前はガスコンロで加熱していたけど、ロケットストーブに出会ってからは加熱も循環系エネルギーを使えるので大満足です」と話すあやさん。このさまざまな 2 年間の出会いが暮らしや生き方を大きく変えたようだ。

穂高に住む以前から「循環している暮らしや社会が好き」だったあやさん。その思いを行動に変えたのは、16 年前、石川県在住時代に知った繰り返し使える月経用の『エコ・ナプキン (草木染めの布製ナプキン)』。「これこそ循環だ!」と感じ、その普及のお手伝いを始めた。

穂高に移住後の 2012 年、エコ・ナプキンが縁で知り合った樋口有紀さん (エネット会員) と「あぐる」という地域ネットワークの会を立ち上げ、同年三郷で、人が宝、地域が宝をテーマにしたイベント「ふるさとまつり」を開催。



そのイベントで木くずや枯れ枝を有効利用できるロケットストーブに出会った。「これこそ循環コンロだ!」と感激し、すぐに作り方のパンフレットを作り、自作ロケットストーブのワークショップを開催した。その後、女性でも簡単に作れるウッドガスストーブの存在を知り、「ロケットストーブは作れない女性でもウッドガスストーブ作りならできると確信。さらに自作にのめり込みワークショップを開催するようになる。参加者の 7 ～ 8 割が女性。毎回、女性ならではのいろいろな工夫や使い方も生まれるという。

「ご縁のある方とつながりながらいろいろな面白いことにチャレンジする日々。ストーブを作っていたり、草木染めをしていたり、ナプキンを作っていたり。私はナニモノ? と思うこともあります。2 年前からは想像できない充実した日々とアクティブな自分にびっくりしています。

中野 あやさん

Aya Nakano

長野市生まれ。父親が転勤族だったため県内各地を転々。中学、高校時代は長野市に戻るが大学は東京へ。国文学を専攻する。卒業後は都内で就職。結婚・出産を期に退社。夫も転勤族だったため埼玉、熊本、石川、安曇村、釧路、そして穂高へ。現在、図書館に関わる仕事をする傍ら、草木染め、ウッドガスストーブ、エコ・ナプキン等のワークショップ講師として県内、県外で活躍中。中・高・大の 3 人のお子さんのお母さん。「あぐる」主宰メンバーの一人。「エコ・ナプキンワークショップ月読堂」主宰。安曇野市穂高在住。薪ストーブ暮らし。

●あぐる: 人とのつながりを大切に、「子どもたちが安心して暮らせる地域社会を創ろう!」と集まった松本・安曇野地域の仲間たちの会。
●エコ・ナプキンワークショップ: 無漂白ネル生地に草木染めを施した洗って繰り返し使える布製の月経用ナプキンを手ぬいでつくる。

action people #3

情熱が行動にあふれるあやさん。素敵なハートに笑顔が集う、とってもチャーミングな action people です。